

第 30 回日本組織適合性学会大会 演題募集要項

第 30 回日本組織適合性学会大会
大会長 江川 裕人
(東京女子医科大学 外科学講座 肝胆膵外科学 教授)
副大会長 石田 英樹
(東京女子医科大学 移植管理科 教授)

【演題募集期間】

2022 年 4 月 15 日 (金) ~ 2022 年 5 月 31 日 (火)

【応募方法】

大会ホームページからのオンライン登録のみとさせていただきます。

【応募資格】

- ・ 筆頭演者は日本組織適合性学会会員に限ります
- ・ 非会員の方は学会ホームページ (<http://jshi.umin.ac.jp/application/index.html>) をご参照いただき、予めご入会いただき演題申込みをお願いいたします。
- ・ 演題登録数の制限はございません。

【採否通知】

演題採否のご連絡は、ご登録いただきました筆頭演者のメールアドレス宛に 2022 年 7 月頃にご通知いたします。

【発表形式】

シンポジウム・一般演題口演・一般演題ポスター (デジタルポスター併用)

【抄録の公開】

採用されました演題抄録は 2022 年 8 月頃、大会 Web ページにて公開されます。

【学術奨励賞】

本大会では、優れた演題に学術奨励賞の授与が行われます。

ホームページの学術奨励賞のページをご参照いただき、応募資格と応募方法をご確認の上、演題登録時に「学術奨励賞応募」欄で「応募する」を選択してください。

【抄録作成】

- ・ 演題名は全角 100 文字以内 (スペースを含む)
- ・ 抄録本文は全角 800 文字以内を厳守し、【目的】 【方法】 【結果・考察】 の順にてご作成ください。
- ・ 演題、共同演者名 (最大 20 名)、所属 (最大 10 施設)、抄録本文は指定文字に収まるように登録してください。

- 図表の使用はできません。
- 英数字は半角文字を使用し、2 文字で 1 字としてカウントしてください。

【カテゴリー】

臓器移植	疾患
造血幹細胞移植	免疫
細胞・組織移植	技術・方法
再生医療	疫学・統計解析
抗体関連拒絶	動物 MHC
血液型不適合	その他

※その他詳細は大会ホームページをご参照ください。

大会事務局・運営事務局

第 30 回日本組織適合性学会大会事務局

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1 東京女子医科大学 中央検査部
事務局長 石塚 敏

TEL: 03-3353-8112 (内線 25256)

学術集会運営事務局：合同会社 RIMC

〒162-0063 東京都新宿区市ヶ谷薬王寺町 61 405 合同会社 RIMC 内

TEL: 03-6260-7171 FAX: 03-6260-7172

E-mail: jshi30@rimc.co.jp

大会ホームページ： <https://rimc.co.jp/jshi2022/>

2022年3月15日

2022年度の学会賞ならびに学術奨励賞候補者の公募について

一般社団法人 日本組織適合性学会
理事長 一戸 辰夫
学術担当理事 徳永 勝士

学会員の皆様方へ

日本組織適合性学会では2014年（平成26年）度より、高い権威をもつ「学会賞」と、若手学会員の学術研究を奨励する「学術奨励賞」を設けております。本学会の定める「学会賞」ならびに「学術奨励賞」の候補者の資格や選考規定により、学会賞は「組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野において顕著な業績をあげ、本会の発展に特筆すべき功績を残した者を表彰し、もってその栄誉をたたえること」を目的とし、一方、学術奨励賞は「組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野における、秀でた学術的研究を若い学会員に奨励するために優れた若手研究者を表彰し、もって当該分野の発展に寄与すること」を目的としております。

つきましては、本規定に則り、2022年度の日本組織適合性学会の学会賞ならびに学術奨励賞の候補者を、以下の要領で公募いたしますので、奮ってご応募ください。

1. 助成内容

組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野において顕著な業績をあげ、本会の発展に特筆すべき功績を残した学会員または名誉会員（年齢制限なし）に学会賞を授与いたします。また、2022年度学術集会大会（第30回日本組織適合性学会大会、大会長：江川裕人）に、学術奨励賞の受賞候補者として応募された一般演題の中から、特に優秀と認められた演題の筆頭演者（原則として2022年4月1日時点で満45才以下）に学術奨励賞を授与いたします。授与件数は学会賞1名（賞金10万円）、学術奨励賞若干名（賞金5万円、あるいはそれ以下）を予定しております。

2. 応募資格

(1) 学会賞

本学会の正会員として5年以上の会員歴があり、以下の条件を満たす者とする。

- 1) 組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野において顕著な業績をあげ、組織適合性学会の発展に特筆すべき功績を残した実績を有すること。
- 2) 本学会の正会員または名誉会員であること
- 3) 正会員である場合は、当該年度の会費を納入済みであること。

(2) 学術奨励賞

本学会の正会員（当該年度大会までに正会員となる者を含む）であり、以下の条件をすべて満たす者とする。

- 1) 組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野に関する学術研究において、その内容が優れていること。
- 2) 当該年度の会費を納入済みであること、または当該年度の学術集会大会までに正会員として会費を納入すること。
- 3) 学術奨励賞を受賞した者は、原則として次年度以降も正会員を継続すること。
- 4) 当該年度の学術集会大会に、筆頭演者として演題を応募すること。

- 5) 応募しようとする演題の内容において、応募者が中心的な役割を果たしていること。
- 6) 応募しようとする演題の内容が、本学会に未発表であること。
- 7) 受賞後に MHC へ原著論文あるいは総説を執筆できること。
- 8) 過去3年間に学術奨励賞を受賞していないこと。
- 9) 学術奨励賞の応募者は当該年度の4月1日において、原則として45才以下であること。

3. 応募・推薦方法

(1) 学会賞

学会賞は自薦または他薦とし、2022年の4月末までに、候補者に関する以下の書類を日本組織適合性学会 広島事務支局 (e-mail: jshihiroshima@gmail.com)あてにメール添付で提出する。なお、他薦の場合には、推薦者は正会員であることが必要です。

1) 履歴書

書式は自由とし、A4用紙にて1枚程度とする。連絡先住所、電話番号、FAX、e-mailアドレス、生年月日、年齢を記入する。

2) 業績概要

書式は自由とし、A4版用紙にて2～3枚程度とする。

3) 論文業績リスト

書式は自由とし、代表的な論文3編について、別冊（コピーも可）各1部を添付する。

4) 応募の動機（他薦の場合は推薦書）

書式は自由とし、学会賞への応募理由（他薦の場合は推薦理由）をA4版用紙1枚に記載する。

(2) 学術奨励賞

学術奨励賞に応募しようとする会員は、学術集会大会の一般演題申込み締切り日までに、以下の書類を学術集会大会事務局あてに提出する。

1) 抄録

一般演題に応募した抄録

2) 応募ファイル

1頁目に、演題名、演者（全員）、所属（全員）、および応募者（筆頭演者）の連絡先住所、電話番号、FAX、e-mailアドレス、生年月日、年齢を記入する。2頁目以降に、応募した(1)研究の背景、(2)研究の意義、(3)日本組織適合性学会との関わり（これまでの関わりと、今後の方針・計画など）を、項目ごとに300-400字程度にまとめる。

4. 選考および結果通知について

(1) 学会賞

評議員の中から評議員による選挙で選ばれた選考委員により構成される、学会賞選考委員会が選考を行う。委員会は、応募・推薦のあった学会賞受賞候補者より、1名を受賞候補者として選考した後に、これを理事会に推薦するものとする。なお、委員は密接な利害関係がある候補者の審査には、加わらないものとする。理事会は、学会賞選考委員会から推薦された受賞候補者1名について審議し、受賞者を決定した後に、評議員会の承認を経て総会に報告するものとする。

(2) 学術奨励賞

理事長、学術賞担当理事、学会賞選考委員、ならびに学術賞担当理事が選考した若干名を含む評議員によっ

て構成される，学術奨励賞選考委員会が選考を行う。委員会は，応募があった奨励賞受賞候補者の中から，当該年の学術集会大会中の各候補者の口頭発表内容の評価等を参考にして，奨励賞選考委員会にて若干名を受賞候補者として選考した後に，これを理事長に推薦し承認を得る。なお，応募者が多い場合には，委員会が応募書類の書面評価を基にして，学術集会大会中の受賞候補者口演の演者を選考する。委員は密接な利害関係がある候補者の審査には，加わらないものとする。当該年の学術集会大会中に選考結果を公表し，表彰式を実施する。

5. 受賞者にかかる義務について

(1) 学会賞

学会賞受賞者は，原則として受賞年度に開催される学術集会大会期間中に，受賞講演を行う。

(2) 学術奨励賞

- 1) 学術奨励賞受賞者は，助成が行われた研究課題に関する報告書（様式は別途通知します）を，日本組織適合性学会 広島事務支局 (jshihiroshima@gmail.com)あてに提出する。
- 2) 受賞後原則として3ヶ月以内に，受賞課題に関する原著論文あるいは総説をMHCへ投稿する。

6. 助成金の使途

使途について特に制限はないが，学会賞・学術奨励賞であることの趣旨をご理解のうえ，適切に使用しなければならない。なお，学術奨励賞受賞者については使途と，その内訳を前述の報告書に記載する。

7. 問い合わせ先

本件に関する問い合わせは，日本組織適合性学会 広島事務支局 (e-mail: jshihiroshima@gmail.com)あてに，お願いいたします。

**組織適合性検査技術者認定制度
令和4年度・認定HLA検査技術者講習会のお知らせ**

組織適合性検査技術者認定制度委員会
委員長 橋口 裕樹
組織適合性学会教育委員会
委員長 椎名 隆

日時：令和4年9月19日（月曜日・祝日）
時刻：9時00分～11時00分（予定）

会場：第30回日本組織適合性学会 大会会場
日本教育会館
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2（TEL: 03-3230-2831）

テキスト：テキストは、学会誌MHC第29巻2号（令和4年8月発行予定）に掲載しますので各自、御参照ください。会場でのテキストの販売はいたしません。

受講証明書：認定制度に関わる受講証明の受領を希望される方には、会場入口の受付にて、1人につき1枚を発行いたします。

内容：各講習とも質疑応答を含めて40分間を予定しています。

- (1) HLAに関する基礎医学的な講演
成瀬 妙子 先生（長崎大学熱帯医学研究所）
「認定制度筆記試験の解説とポイント整理 ーその弐ー」
- (2) HLA タイピングあるいは抗HLA抗体検査に関する講演
藤原 孝記 先生（帝京大学医療技術学部）
「HLA以外に求められる移植関連検査について」
- (3) 移植医療に関する講演
村田 誠 先生（名古屋大学大学院医学系研究科）
「造血幹細胞移植と組織適合性抗原」

この講習会は、今後HLA検査技術者認定を取得、あるいは更新しようとする者を対象に実施されますが、それ以外の大会参加者であっても自由に参加することができます。事前に受講希望届けを提出し、事前登録していただく必要はございません。

初心者講習会の開催及び参加希望者募集について

日本組織適合性学会教育委員会
委員長 椎名 隆
教育委員会初心者教育部会
部会長 黒田ゆかり

日本組織適合性学会では、学会大会プログラムにおいてQCワークショップや技術者講習会を開催し、学会員の組織適合性検査に関わる知識や技術の向上を目指しております。しかし一方では、組織適合性検査に関する基礎的な知識の習得や日常業務に役立つポイントなどの情報交換ができる時間を大会プログラムにおいて十分に確保することは難しい状況があります。そこで、今年度も下記の通り、HLA および HLA 検査に関する基礎的な内容の知識習得と教育訓練を目的とした「初心者講習会」（複数企画を予定）を大会期間中に開催する事と致しました。

記

- 1, 対 象 : 大会参加者
(組織適合性検査の初心者で、HLA の基礎的な内容の教育訓練を希望する方)
- 2, 日 時 : 日本組織適合性学会第 30 回大会期間中
2022 年 9 月 17 日 (土) 18:00 ~ 20:20 (予定)
- 3, 会 場 : 日本教育会館
- 4, 企 画 : 基礎講義およびワークショップ (WS) (予定)
(基礎講義)「HLA の基礎知識」
(WS-1) タイピングに関する内容 (実務経験 0 ~ 3 年向け)
概要 : PCR-SSP 法を中心にタイピングに必要な基礎を学ぶ
(WS-2) 抗体検査に関する内容 (実務経験 0 ~ 3 年向け)
概要 : Luminex による抗体検査を中心に必要な基礎を学ぶ
- 5, 定 員 : 基礎講義は 50 名程度, WS-1 及び WS-2 は各 20 名程度 (予定)
(定員数を超える場合は、初心者教育部会で選考を行う場合があります。)
- 6, 参加費 : 無料
- 7, その他 : 申し込みに関する詳細は 6 月中旬に日本組織適合性学会のホームページに掲載致します (応募締め切りは 7 月末を予定しています)。なお、上記内容は大会の開催形態などの状況により変更する場合があります。

以上

令和3年度・認定HLA検査技術者講習会アンケート集計結果

開催日時：令和3年9月5日（日）9：00～11：00

会 場：第29回日本組織適合性学会大会 Web会場

回答者総数：163名（以下の全項目に回答）

1. 参加者に関する集計結果

(1) HLA検査・研究に携わっている職場（複数回答可）

①	病院	33名（18.4%）
②	大学病院	55名（30.7%）
③	血液センター	22名（12.3%）
④	検査センター	24名（13.4%）
⑤	大学（国公立，私立）	13名（7.3%）
⑥	民間企業	25名（14.0%）
⑦	その他	7名（3.9%）

(2) HLA検査・研究に携わっている職務（複数回答可）

①	臨床医	3名（1.4%）
②	臨床検査業務	102名（48.1%）
③	検査受託業務	37名（17.5%）
④	製造業関連業務	18名（8.5%）
⑤	製品開発業務	6名（2.8%）
⑥	教育業務	7名（3.3%）
⑦	研究業務	29名（13.7%）
⑧	その他	10名（4.7%）

(3) 日本組織適合性学会の会員歴

① 1～3年：42名（25.8%） ② 4～10年：65名（39.9%） ③ 11年以上：56名（34.3%）

(4) 認定資格の取得状況および取得への希望

① 取得済み：93名（57.1%） ② 取得する予定：61名（37.4%）

③ 予定なし：7名（4.3%） ④ その他：2名（1.2%）

2. 講習会に関する集計結果

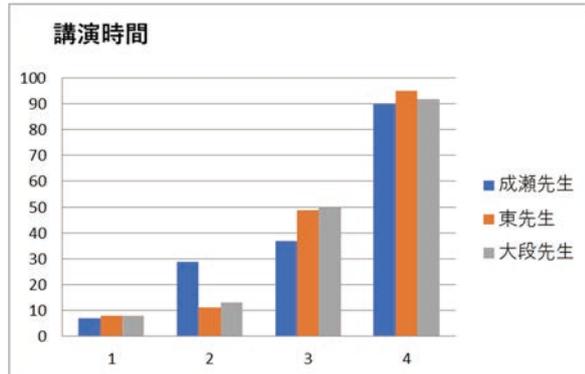
(1) 講習会テキストの事前確認の有無

① あり：135名（82.8%） ② なし：28名（17.2%）

(2) 講習科目の種類は適切であったか？

すべての科目において適切であった	146名 (89.6%)
一部の科目に問題があったが、ほぼ適切であった	12名 (7.4%)
約半数の科目は適切であった	4名 (2.5%)
多くの科目について不適切であった	1名 (0.6%)

(3) 講習時間は量的に適切であったか？



評価基準

4. 適切であった
3. ほぼ適切であった
2. もう少し長くてもよかった
1. もう少し短くてもよかった

(4) 講習会の開催通知は適切であったか？

① 適切であった	152名 (93.3%)
② あやうく見落とすところであった	9名 (5.5%)
③ 他の人から情報を得るまで気づかなかった	2名 (1.2%)

(5) WEB開催の音声・画像の品質について

① 終始良好だった	120名 (73.6%)
② 一時的に途切れる、乱れることはあったが視聴に問題はなかった	35名 (21.5%)
③ 視聴できない状態が何回かあった	2名 (1.2%)
④ 終始不良だった	0名 (0%)
⑤ その他	6名 (3.7%)

その他の内訳：視聴側の問題、演者の音声不明瞭

(6) 今後の講習会で習得したい内容について

基礎に関する内容

- ✓ 統計解析
- ✓ 基礎免疫学
- ✓ 認定試験問題の解説
- ✓ リキッドバイオプシー
- ✓ 基礎と最新情報から構成される講演

検査に関する内容

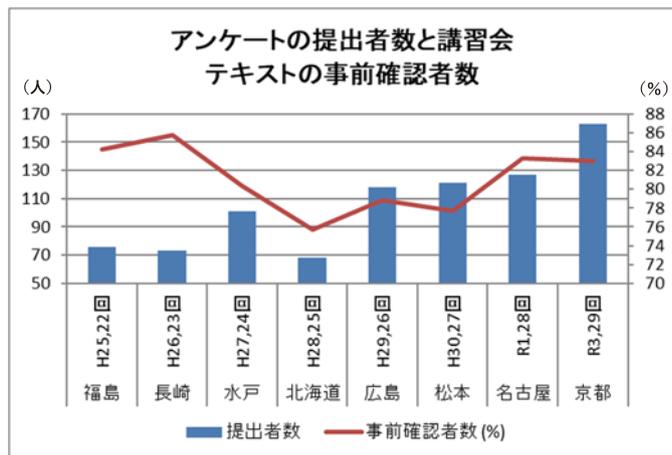
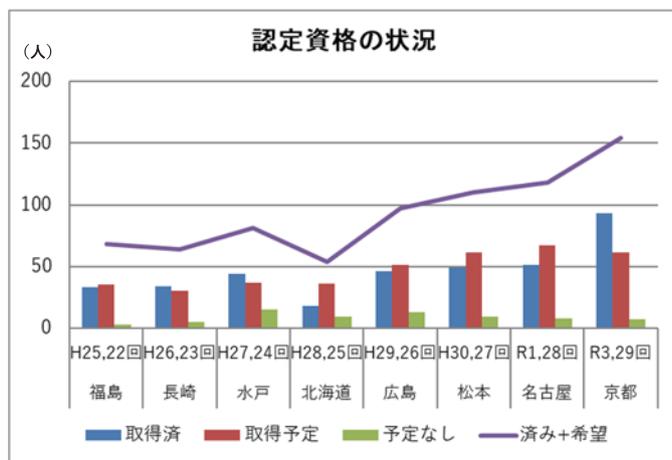
- ✓ 血清タイピング法
- ✓ 移植におけるHLA抗体の考え方

- ✓ FCXM
- ✓ エピトープ解析
- ✓ B細胞エピトープとT細胞エピトープ
- ✓ NGS-SBTの最近動向やアレル判定
- ✓ 検査手技や解析におけるポイント
- ✓ タイピング解析のポイントや頻度から推測される注意点
- ✓ HLA, HLA抗体検査の実際の検査例からの結果の解釈

臨床に関する内容

- ✓ 疾患感受性と移植予後
- ✓ 造血幹細胞移植とHLA適合性関連
- ✓ COVID19とOS1多型
- ✓ 臨床現場におけるHLA検査の必要性
- ✓ 臨床データから基礎研究に繋がる内容

(7) 第22回(H25)～第29回(R3)における認定資格状況、アンケート提出者数および講習会テキストの事前確認者数



日本組織適合性学会認定制度委員会委員 名簿

組織適合性技術者認定制度委員会						
委員長	橋口 裕樹		副委員長		清水 まり恵	
委員	石塚 敏	一戸 辰夫	大橋 順	木村 彰方	黒田ゆかり	高 陽淑
	椎名 隆	田中 秀則	中島 文明	成瀬 妙子	藤井 明美	宮寺 浩子
	湯沢 賢治					
資格審査部会 (※施設認定担当)						
部会長	石塚 敏		副部会長		藤井 明美※	
部員	清水 まり恵	田中 秀則※	成瀬 妙子	橋口 裕樹※	安尾 美年子	
教育委員会 (教育部会)						
部会長	椎名 隆		副部会長		大橋 順	
部員	石塚 敏	太田 正穂	大貫 優子	木村 彰方	黒田 ゆかり	高 陽淑
	清水 まり恵	土屋 尚之	成瀬 妙子	平山 謙二	村田 誠	森島 聡子
試験問題検討部会						
部会長	成瀬 妙子		副部会長		木村 彰方	
部員	一戸 辰夫	王寺 典子	大橋 順	椎名 隆	土屋 尚之	西村 泰治
	平山 謙二	湯沢 賢治				
QCワークショップ部会						
部会長	高 陽淑		副部会長		黒田 ゆかり	石塚 敏
部員	一戸 辰夫	内田 みゆき	奥平 裕子	木村 彰方	高橋 大輔	中島 文明
	橋口 裕樹	藤原 孝記	宮崎 孔	湯沢 賢治		
ワーキンググループ						
ワーキンググループ	リーダー		メンバー			
抗HLA抗体WG	杉本 達哉		禿 蘭子	白水 隆喜	吉田 雅弥	
表記法WG	黒田 ゆかり		石塚 敏	木村 彰方	田中 秀則	
評価方法検討WG	石塚 敏		黒田 ゆかり	高 陽淑	田中 秀則	中島 文明